

JIS

人間工学－人とシステムとの
インタラクション－第221部：
人間中心設計プロセスアセスメントモデル

JIS Z 8530-221 : 2025

(ISO 9241-221 : 2023)

(JES/JSA)

令和7年11月20日 制定

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第二部会 電子・情報技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	河 合 和 哉	国立研究開発法人産業技術総合研究所
(委員)	相 蘭 敏 子	株式会社日立製作所
	足 立 朋 子	株式会社東芝
	石 井 紀 彦	日本放送協会
	上 原 まひる	ソニー株式会社
	加 藤 徳 子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサル タント・相談員協会
	杉 山 美佐和	一般財団法人日本消費者協会
	高 岡 詠 子	上智大学
	中 西 孝 子	昭和医科大学
	長 瀬 亮	国立研究開発法人情報通信研究機構
	永 沼 美 保	日本電気株式会社
	福 田 健太郎	日本アイ・ビー・エム株式会社
	山 本 浩 司	日本電信電話株式会社
	渡 辺 靖 晃	一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：令和 7.11.20

官 報 掲 載 日：令和 7.11.20

原 案 作 成 者：一般社団法人日本人間工学会

(〒160-0011 東京都新宿区若葉 1-10 大洋ビル 4C TEL 03-6380-6730)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-11-28 三田 Avanti TEL 050-1742-6017)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第二部会 (部会長 古関 隆章)

審議専門委員会：電子・情報技術専門委員会 (委員長 河合 和哉)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省イノベーション・環境局 国際電気標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	2
3 用語及び定義並びに略語	3
3.1 用語及び定義	3
3.2 略語	3
4 適合性	3
5 プロセスアセスメントモデル及び能力判定	4
5.1 一般	4
5.2 プロセス能力水準及びプロセス属性	4
5.3 プロセスパフォーマンス指標	5
5.4 プロセス能力指標	6
5.5 プロセス属性評定	6
5.6 プロセス能力水準のモデル	8
6 プロセス参照モデル及びプロセスパフォーマンス指標（水準 1）	10
6.1 一般	10
6.2 HCP.1 プロセス群：企業が人間中心設計による成果に焦点を当てることへの確認	12
6.3 HCP.2 プロセス群：プロジェクト及びシステムにおける人間中心設計活動の導入	14
6.4 HCP.3 プロセス群：プロジェクト内での人間中心設計活動の実施	19
6.5 HCP.4 プロセス群：システムの導入，運用及び終了	40
7 プロセス能力水準及びプロセス属性（水準 0～5）	46
7.1 一般	46
7.2 プロセス能力水準 0：不完全なプロセス	46
7.3 プロセス能力水準 1：実施されたプロセス	46
7.4 プロセス能力水準 2：管理されたプロセス	47
7.5 プロセス能力水準 3：確立されたプロセス	51
7.6 プロセス能力水準 4：予測可能なプロセス	55
7.7 プロセス能力水準 5：革新しているプロセス	58
附属書 A（参考）プロセス参照モデル及びプロセスアセスメントモデルの解説	60
附属書 B（参考）人間中心設計プロセスアセスメントモデル及びプロセス参照モデルの JIS X 33004 との適合性	63
附属書 C（参考）アセスメント要素である作業成果物において確認可能な属性	65
参考文献	84
解 説	86

まえがき

この規格は、産業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人日本人間工学会（JES）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を制定すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本産業規格である。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

人間工学—人とシステムとのインタラクション—

第 221 部：人間中心設計プロセスアセスメントモデル

Ergonomics of human-system interaction— Part 221: Human-centred design process assessment model

序文

この規格は、2023 年に第 1 版として発行された **ISO 9241-221** を基に、技術的内容及び構成を変更することなく作成した日本産業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある参考事項は、対応国際規格にはない事項である。

この規格は、人間中心設計（HCD）プロセス能力及び HCD の実施における組織の成熟度に焦点を当てている。

この規格の主な利用者は、HCD プロセスを、**ISO 9241-220** に記載されているプロセス参照モデル（PRM）に従ってアセスメントする責任を負う、社内外のアセッサ又は十分に訓練された UX 専門家（HCD プロセスマネージャ又は HCD 品質マネージャなど）である。**ISO 9241-220** の主たる利用者である、組織に HCD を制度化する責任のある専門家も、この規格は彼らの仕事をアセスメントしようとしているため、この規格の大切な利用者である。

この規格は、**ISO 9241-220** のプロセス、及び **JIS X 33020** のプロセス能力アセスメントのためのプロセス測定フレームワークに基づくプロセスアセスメントモデル（PAM）を取り入れている。

1 適用範囲

この規格では、**JIS X 33020** に基づき、また **JIS X 33004** の要求事項に従って、**ISO 9241-220** に適合した人間中心設計（HCD）のプロセス参照モデル（PRM）、及びこれらのプロセスをアセスメントするためのプロセスアセスメントモデル（PAM）について規定する。

この HCD プロセスアセスメントモデルは、**ISO 9241-220** で定義する HCD プロセス参照モデルの意図を踏まえて考慮すべき一連の指標を含む。これらの指標は、アセスメント後にプロセス改善プログラムを実施する際にも適用可能である。

注記 1 この規格は HCD プロセスをアセスメントすることに焦点を当てる。例えば、システムライフサイクルに関する **JIS X 0170** 及びソフトウェアライフサイクルに関する **JIS X 0160** とは異なる。

注記 2 **ISO 9241-220** の適用範囲を超えるプロセスが要求される場合は、**JIS X 0160**、**JIS X 0170** 又は **ISO/TS 18152** などの他のプロセス参照モデルから適切なプロセスを、組織の事業ニーズに基づいて追加することが可能である。